

グランドハンドリング業務効率化で作業者の労働負荷軽減

関空でパレットドーリー位置情報検知の本格運用開始

イスラエル企業 hoopo 製の位置測位・積載検知センサーを活用した実証実験が完了

鴻池運輸株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役会長兼社長執行役員 鴻池 忠彦、以下 鴻池運輸）は、関西国際空港制限区域内で 2021 年より実施していた、グランドハンドリング業務^{※1} で使用するパレットドーリー（以下 ドーリー）^{※2} の位置情報検知の実証実験^{※3} が完了し、2024 年 10 月 1 日（火）より、実運用を開始しました。イスラエルの Hoopo Systems Ltd.（本社：イスラエル、CEO Ittay Hayut（イタイ・ハユート）、以下 hoopo（フーポ））^{※4} が開発した位置測位・積載検知センサーを使用した日本国内の空港における実証実験・実運用は、初の事例となります。

※1 航空機への手荷物・貨物・郵便物の搭降載や搬送、旅客手荷物の仕分けをはじめとする航空輸送に必要な、地上でのさまざまな取り扱い業務

※2 航空機に搭載するコンテナを運搬するための台車。次ページの写真を参照ください

※3 関連報道発表：2021 年 1 月 27 日 <https://www.konoike.net/news/detail/20230928171621.html>

※4 hoopo：<https://www.hoopo.tech/>

実証実験は、KONOIKE グループの株式会社 K グランドサービス（以下 KGS）^{※5} より、空港内に散在するドーリーの搜索効率を向上させ、業務を効率化させたいという現場の声を受け、ドーリーの現在位置や積み荷の有無をリアルタイムに把握することでこの課題を解消し、ドーリーの搜索時間削減、作業者の労働負荷軽減を目指す取り組みでした。ドーリーの現在位置や積み荷の有無は、hoopo 製のセンサーを各ドーリーに設置し、衛星利用測位システム（GPS）などを利用してパソコンやスマートフォンなどの端末で把握します。ドーリーの位置測位の精度検証や耐久性を検証した結果、このたび実運用における有用性や耐久性が確認できたため、2024 年 10 月 1 日（火）より、KGS が保有するドーリー 563 台にセンサーを設置し、本格的な運用を開始しました。

これまで作業者によるドーリー搜索では旅客便 1 便に約 30 分程度を要していましたが、位置測位・積載検知センサーを使用する搜索では、約 15 分となり、約 50%の搜索時間削減^{※6} となります。今回の業務効率化、労働負荷軽減の取り組みは、コロナ禍での離職をきっかけとする人手不足の空港現場において、労働環境の改善に大きく貢献するものと考えています。

※5 鴻池運輸 Web サイト「KGS 紹介」 <https://www.konoike.net/company/group/japan/kground-service/>

※6 航空機の積載内容や種類により大きく変動するが旅客便 1 便に対して使用するパレットドーリーは約 8 台

今後、鴻池運輸では、グランドハンドリング業務を提供する KGS 以外のグループ各社への水平展開も検討していきます。

（報道関係者様お問い合わせ先） 広報室 古屋、^{じくはら}竺原 tel:03-3575-5753

■ドーリー ※イメージ



■ドーリーに設置したセンサー



■hoopo製 センサー hoopo Sense-C



■鴻池運輸株式会社の概要 (<https://www.konoike.net/>)

KONOIKE グループは、物流の枠を超え、製造、医療、空港業務などを通じ、社会課題の解決と革新に挑戦し続ける、プロフェッショナルサービス集団です。

商号	鴻池運輸株式会社 ※東証プライム市場	代表者	代表取締役会長兼社長執行役員 鴻池 忠彦
大阪本社	大阪市中央区伏見町 4-3-9	東京本社	東京都中央区銀座6-10-1
創業	1880（明治 13）年 5 月	会社設立	1945（昭和20）年5月30日
資本金	1,723百万円	従業員数	約24,000名（連結） ※臨時雇用者数を含む
売上高	315,029百万円（連結）	営業利益	16,634百万円（連結）
事業内容	鉄鋼事業、エンジニアリング事業、食品関連／定温物流事業、食品プロダクツ関連事業、生活関連事業、メディカル事業、空港事業、国際物流事業、インド事業		

※資本金、従業員数、売上高、営業利益：2024年3月31日現在。

●本ニュースリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。